公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2015年10月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記
・多摩川河口定例探鳥会・・・・・・・・・・1
・粟生(あお)線支援探鳥会「明石川・近江寺の里山」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・5
（2015年8月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・7
・「探鳥会リーダーズフォーラムを開催します」
・『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・11
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・12
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・12

◆探鳥会訪問記（多摩川河口定例探鳥会）

多摩川河口定例探鳥会（神奈川支部）

日時：2015年9月27日（日）
　　9時～12時30分
天候：曇り
参加人数：17名（男性8名、女性9名）
リーダー：男性3名、女性2名
コース：殿町第3公園→多摩川河口→殿町第2公園解散

■探鳥会概要

多摩川の源流は山梨県笠取山にあり、河口は羽田沖の東京湾となる、全長138kmの山梨・東京・神奈川を流れる一級河川です。

観察はその河口付近、羽田空港の向かい側となり、干潟やヨシ原に集まる野鳥を観察しました。

■探鳥会の様子と観察した鳥

9時、神奈川県川崎市の殿町（とのまち）第3公園に集合します。時間になると、リーダーの紹介やコース、観察を期待できる鳥の説明が始まりました。また、今回は初心者が多かったため、渡り鳥にはどんな種類がいるか、「夏鳥」や「冬鳥」、「旅鳥」の違いなどを簡単な図を使って説明されていました。

観察場所は川沿いのサイクリングロードとなっており、自転車に気を付けながらゆっくりと移動し、鳥を探しました。干潟やヨシ原、中州などがある環境で、カワウやウミネコ、シロチドリなどをメインとした観察会になりました。

▲水辺の鳥を観察中

カワウが大きなマルタウグイ（マルタ）をとらえたものの中々呑み込めず、しばらく咥えたまま水面をウロウロとしているところに遭遇。結局は呑み込むのを諦めた様子から
「ウは丸のみしかできないんだよね。あの獲物

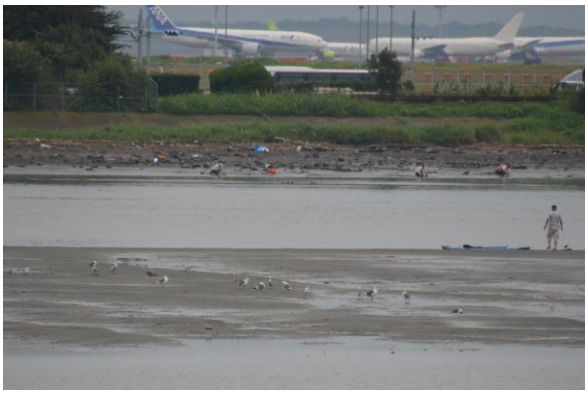
はどう見ても大きすぎる。『鵜呑みにする』という言葉もそこからきているらしいね。」
「ウグイって魚の名前は『鵜食い』からきてるいんだよね」
など、習性やその鳥にまつわる日本語の話、鵜飼いの話などにも話題は広がり、初心者の方にも親しみやすい内容となり、関心が集まりました。
　その後、カワウが諦めた魚をアオサギがあっさり食べた様子も見られ、
「アオサギの口の方が広くガバッと開くから食べられたようだ」
「カワウの方が嘴は細いが、嘴の先は魚を逃がさないようにカギ型になっている」
など、口の作りの違いに話題が広がっていました。
　また、見分けの難しいカモメ類でも
「これだけ覚えればカモメ類も楽しく見られるから」
と丁度タイミングよく並んだ「基本のカモメ」の見分け方を教わり、丁寧な観察が出来ました。

▲魚を咥えたままのカワウ

　観察出来た鳥は、カワウ、カンムリカイツブリ、カルガモ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、イソシギ、シロチドリ、ユリカモメ、ウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、トビ、チョウゲンボウ、スズメ、ヒバリ、ムクドリ、キジバト、モズ、ハクセキレイ、シジュウカラ、ハシブトガラス、ハシボソガラスの 23 種類＋１（ドバト）でした。

■参加者の声

　以下は探鳥会参加中に雑談の中でお聞きした参加者の声です。
50 代女性：花が好きなので庭の手入れをしていると、よく鳥が来るので興味を持つようになりました。ここと鎌倉の探鳥会へ参加しています。
60 代女性：今年に入ってから探鳥会に時々参加するようになり、こちらは新聞で見つけ、初めての参加です。
　もともとは花が好きで花を見ていたのですが、花には鳥がよく来る事に気が付き、気になり始めました。鳥をよく見るためには双眼鏡が必要だと思い、双眼鏡を購入したのがきっかけで、探鳥会に参加しています。色々教えてもらえて楽しいです。


▲中州の水鳥と釣り人と飛行機

■まとめ

　朝から小雨が降ったりやんだりの怪しいお天気だったため、参加者が 11 名と少なめでした。そのうち初参加者は 4、5 人と半数近くを占めており、リーダーの説明が鳥の姿が解りやすく描いてある絵本を使ったり、基本になるカモメ類の見分け方を紹介したりと、とても丁寧なものになっていたのが印象的でした。
　また、珍しい鳥の出現が少なかったのも幸いで、必死になって鳥を探すというよりも、「鵜」に由来する日本語のお話を聞くことができたりと、改めて野鳥が人の生活に寄り添っていたことを認識できる時間が持てました。
　普段ならそれほどじっくりと観察するような種類の鳥でなくても、話の進め方や小道具などの工夫でいくらでも楽しい探鳥会にできるのだという事を見せて頂きました。

（普及室／植木陽子）

粟生線支援探鳥会「明石川・近江寺の里山」（ひょうご）

参加日時：2015 年 10 月 4 日（日）
９時～15 時
天候：晴れ
参加者：22 名（男性 14 名、女性８名、
財団事務局浅野含む）
リーダー：２名

■探鳥会概要

粟生線支援探鳥会「明石川・近江寺の里山」は、日本野鳥の会ひょうごが一昨年から年に１回開催している探鳥会です。

神戸市北西部に位置する明石川・近江寺（きんこうじ）周辺は、いまだのどかな田園風景を残す場所です。また、神戸市内で初めてオオタカの営巣が確認され、兵庫県支部（当時）と地元が一体になって自然保護運動を展開し保護区が指定された、特別な場所でもあるそうです。

神戸電鉄粟生（あお）線は、神戸市北部と小野市を結ぶ鉄道路線ですが、人口減などによる慢性の赤字のため廃線がささやかれています。参加者が利用することで粟生線の応援をしよう、との願いが込められた探鳥会でもあります。

栄駅改札口前に９時に集合。明石川沿いの散策路を観察しながら進み、途中から林間の小道をたどって近江寺に向かい、昼食・休憩をはさんで押部谷駅までの里山・農地の中をゆっくりと歩く、約５ｋｍ、約６時間のコースでした。

■探鳥会の様子と観察した鳥

澄み切った空に高い雲が浮かぶ、気持ちのいい秋晴れの中での探鳥会でした。

集合場所の栄駅前では、周辺案内図を見ながら今日のコースを説明。参加者の約半数は非会員で、初参加の方を含め、探鳥会の参加経験の浅い方が多いようでしたが、リーダーの方々のにこやかな自己紹介や、トイレの場所や所要時間などの丁寧な説明で、ぐっとリラックスした良い雰囲気になりました。

出発して開けた田んぼの中の道を行くと早速、ムクノキの大木の梢の中に次々と入るムクドリの群れと高い枝先に止まるモズの雄に遭遇しました。早速、双眼鏡の使い方の練習を兼ねて、じっくりと観察しました。

明石川沿いの散策路では田んぼ側でノビタキやモズ、ホオジロ、水辺側ではダイサギ、イソシギ、キセキレイなどの鳥を観察しました。リーダーからは観察ポイントだけでなく、
「セグロセキレイは日本の固有種で、来日したキッシンジャー元米国務長官がそれを見てとても喜んだそうです。」
「サギは『悪いことしてすみません』って首を縮めているんですよ。」
「時代劇の武将同士が話し合う場面のバックに、よくモズの高鳴きが BGM として使われます。お気づきですか？」
など、興味深い逸話や、愉快なジョークが次々と飛び出し、参加者が興味深く聞き入る姿があちこちで見られました。

▲明石川沿い散策路での観察の様子

林間の勾配のある小道をたどり、近江寺で昼食とトイレ休憩の時間を取りました。リーダーから
「今から店開きでーす。」
との声がかかり、野鳥のブローチやワッペンなどの小物から双眼鏡の見本まで、小さなお店の前には参加者が集まって野鳥グッズ談義に花が咲いていました。この日は女性参加者数名がブローチを、男性参加者が双眼鏡を購入されていました。グッズ販売をきっかけに自然な流れで入会のおすすめもされ、２名の入会希望者がありました。

探鳥会も終盤、きれいに色づいた実がたくさんなった大きな柿の木の前にリーダーが参加者を集めました。今日の探鳥会のしおりの中には『小さい秋見つけた』の歌詞が印刷されています。
「10 月の探鳥会ではこれを歌うことにしています。」
晴れ渡る秋空の下、全員で
「♪だーれかさんが　だーれかさんが　だーれかさんが　みぃつけた♪」
と歌って和やかに探鳥会を終えました。

▲全員で『小さい秋見つけた』を合唱

観察した鳥は、カワウ、ダイサギ、アオサギ、トビ、オオタカ、ハヤブサ、クサシギ、イソシギ、キジバト、ツツドリ、アマツバメ、コゲラ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ノビタキ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト、計 33 種でした。

■参加者の声

以下は探鳥会に参加しながら雑談の中で伺った参加者のお話です。

70 歳代くらいの女性：近くに住んでいますが、初めて参加しました。一人で歩いていてもゆっくり周りを見ないので、こんなにたくさんの鳥が身近にいると知ることができて面白かったです。粟生線支援というのにも共感しました。

60 歳代くらいの男性：定年後の趣味にしたいと思って 3 年前からバードウオッチングをはじめました。会員で月に 2 回ぐらい探鳥会に参加しています。前から近江寺に来てみたかったので、今日は本当に堪能しています。

50 歳代ぐらいのご夫婦：（奥様）インコを飼っているのですが、身の回りの野鳥のことが知りたくて昨年から探鳥会に参加しています。探鳥会に参加して野鳥がインコに負けないぐらいにカラフルで可愛い事を知り、世界が広がりました。
（ご主人）私はカメラが好きなのですが妻に誘われて参加しています。

■まとめ

長時間にわたる探鳥会でしたが、リーダーだけでなく、ベテラン会員の方も一緒になって、参加者がじっくりと観察できるよう、さりげなくスコープをのぞけるよう勧めたり、初心者にもわかりやすい観察ポイントを繰り返し話してくださる等、終始経験の浅い参加者への配慮が感じられる探鳥会でした。

また、野鳥の観察だけでなく周辺の動植物や環境にまでお話がおよび、植物に詳しい参加者から解説があったり、地元の方から近辺の過去の様子のお話があったりと、探鳥会の枠に収まらない内容の深まりが印象的でした。

「粟生線支援」とうたわれていることからも、地域の方々と共にフィールドを大切にしたいというリーダーの方々の思いが伝わってきた１日でした。

（普及室／浅野綾子）

◆探鳥会保険集計結果（2015 年 8 月分）

8 月は 65 支部からご報告をいただき、計 173 回の探鳥会が開催され、のべ 3,537 人が参加されました。

表１.8 月の探鳥会保険集計結果（2015 年 9 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員(人)	非会員(人)		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	2	52	9	2	63
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	2	12	12	6	30
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	1	8	0	1	9
道北支部	2	7	3	2	12
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	2	60	8	6	74
小樽支部	2	10	6	2	18
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	19	2	3	24
函館支部	0	0	0	0	0
道南桧山	1	11	24	4	39
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	15	0	2	17
秋田県支部	4	54	5	4	63
山形県支部	1	14	2	1	17
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	13	4	5	22
北上支部	0	0	0	0	0
宮城県支部	2	21	7	5	33
ふくしま	1	24	5	3	32
郡山支部	2	43	17	6	66
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	2	1	1	7	9
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	12	1	1	14
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	9	74	31	11	116
栃木	−	−	−	−	−
群馬	4	29	43	12	84
吾妻	1	5	2	2	9
埼玉	5	129	19	34	182
千葉県	5	46	14	19	79
東京	14	323	16	72	411
奥多摩支部	5	59	37	17	113
神奈川支部	9	102	50	34	186
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	1	17	2	1	20
石川	2	26	20	5	51
福井県	0	0	0	0	0
長野支部	2	20	3	4	27
軽井沢支部	1	9	4	1	14
諏訪	1	9	37	2	48
木曽支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	1	22	3	2	27
富士山麓支部	1	2	9	3	14
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	16	0	2	18
南富士支部	2	37	7	3	47
南伊豆	0	0	0	0	0
静岡支部	-	-	-	-	-
遠江	1	19	12	3	34
愛知県支部	7	65	32	18	115
岐阜	-	-	-	-	-
三重	1	2	2	1	5
奈良支部	3	94	5	6	105
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	2	12	5	4	21
京都支部	3	23	66	6	95
大阪支部	12	104	61	52	217
ひょうご	5	45	52	19	116
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	13	30	3	46
島根県支部	1	4	0	1	5
岡山県支部	3	45	36	10	91
広島県支部	3	35	36	11	82
山口県支部	1	11	73	2	86
香川県支部	2	47	6	2	55
徳島県支部	5	57	9	5	71
高知支部	-	-	-	-	-
愛媛	4	38	22	7	67
北九州	1	10	1	1	12
福岡支部	6	54	15	13	82
筑豊支部	4	19	2	4	25
筑後支部	-	-	-	-	-
佐賀県支部	3	39	8	3	50
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	4	42	23	4	69
大分県支部	1	17	4	1	22
宮崎県支部	3	24	13	3	40
鹿児島	2	24	7	7	38
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	-	-	-
全国	173	2,144	923	470	3,537

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■探鳥会リーダーズフォーラムを開催します！■

今年も探鳥会リーダーを対象にした探鳥会リーダーズフォーラムを開催します。このフォーラムは、支部の枠を超えて全国のリーダー同士が知り合い、交流を深め、探鳥会活動についての情報交換や交流をする場です。今年はどんな出会いがあるでしょうか。

このフォーラムに参加して日本野鳥の会のネットワークを実感しましょう！

【実施概要】

＜時　期＞　2016 年 1 月 30 日（土）13:00
～　31 日（日）12:00
＜主　催＞　（公財）日本野鳥の会　普及室
＜旅行実施＞
（株）日本エコプランニングサービス
＜会　場＞　八王子セミナーハウス
＜対　象＞　支部、連携団体の探鳥会に関わっている方
＜定　員＞　50 名（定員になり次第締め切り）
＜参加費＞　10,000 円（1 泊 2 日）
＜プログラム＞

1 日目	13：00	受付
	13：30	オリエンテーション
	14：00	アイスブレイキング
	15：00	第 1 分科会
	17：00	チェックイン、休憩
	18：00	夕食
	19：00	懇親会
2 日目	6：30	早朝探鳥会／自由集会（自由参加）
	8：00	朝食、チェックアウト
	8：30	全体集会
	8：45	第 2 分科会
	10：15	休憩、移動
	10：30	全体集会
	12：00	終了

【分科会】

＜30 日　分科会 A（1 日目）＞

A-①「女性パワーが探鳥会の雰囲気を変える」
川崎康弘（オホーツク支部）

全国で会員が減少している中、オホーツク支部では微増傾向が続いています。そしてその入会の主なきっかけとなっているのは探鳥会です。初参加者がまた来たくなる探鳥会を実施するためにオホーツク支部が実践してきたノウハウを共有して、探鳥会のおもてなしを考えたいと思います。

A-②「若者向け探鳥会ネットワークをつくろう」
石亀明（東京）

神奈川で始まった「若者向け探鳥会」。現在は、東京、栃木、埼玉、岡山、奈良で開催され、それぞれの地域で鳥や自然に関心のある若い人たちの集まりが生まれつつあります。分科会では、各地の取り組みの様子を報告していただき、取り組みの意義を確認するとともに、活動を息長く続けていくためにはどうしたらよいかについて話し合っていきたいと思います。

A-③「リーダー研修会を考える」
手塚功（栃木）

「リーダー研修の必要性はわかるけど、どのような内容でやればよいのかわからない。」といった声をよく聞きます。この分科会では、いくつかの支部の研修会の事例を紹介し、リーダー研修会を企画する際に押さえておくべきポイントは何かについて話し合ってみたいと思います。

＜31 日　分科会 B（2 日目）＞

B-①「ツバメのねぐら入り観察会のすすめ」
堀本理華（財団普及室）

財団では昨年から「ツバメのねぐら入り観察会」の開催を各支部に呼び掛けています。この分科会では、支部からツバメのねぐら入り観察会の実施事例を紹介していただき、観察会実施のポイントなどをまとめていきたいと思います。

B-② 「見せます！やります！探鳥会の工夫100 連発！」　吉沢雅宏（栃木）

探鳥会で実践しているこんな工夫、あんな工夫を持ち寄って披露しあいませんか！

参加者に配っている配布物、自作の教材や実践している技、一芸などなんでもあり。ご自身の工夫を他支部に紹介したい方、逆に探鳥会でのネタに困っていて楽しいネタを持ち帰り、地元で活かしたい方などにおススメです。

B-③ 「“観る”から“保全”へ　～ヨシ原の保全活動～」　滝島克久（奥多摩支部）

鳥を見る活動から、鳥や動植物の取り巻く環境を考え、保全する活動に取り組んでいます。

多摩川羽村堰下ヨシ原の狭いエリアですが、活動の中で見えてきたことがたくさんあります。分科会では、奥多摩支部が取り組んできた事例を紹介し、支部の活動に保全活動というメニューを加えることを皆さんと考えてみたいと思います。

■申込方法：　下記ホームページよりお申込ください。
https://www.pac-sys.net/nmes-nankai/entry/?tancho2016
※ホームページからのお申込みが難しい方は、別途普及室までご相談下さい。

■申込期間：　2015 年 10月17日（土）～11月30日（月）（定員になり次第締切）

■参 加 費：　10,000 円

■振 込 先：　銀 行 名　三井住友銀行
支 店 名　目黒支店
口　　座　（普）６９７９９４８
口座名義　公益財団法人　日本野鳥の会　理事長　佐藤　仁志
※振込時は　ザイ）ニホンヤチヨウノカイで大丈夫です。
※振込人名の後ろに「フォーラム」と入れて下さい。
例）ヤチョウタロウ　フォーラム

＜お申込み関するお問合せ先＞
(株)日本エコプランニングサービス TEL：03-5807-1691（担当：松山）

＜その他フォーラム全般についてのお問い合わせ＞
（公財）日本野鳥の会　普及室　堀本、箱田
〒141-0031　東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
メールアドレス：tancho-staff@wbsj.org
TEL： 03-5436-2622　FAX： 03-5436-2635

（普及室／箱田敦只）

■『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■

◇チメドリ科の将来は？

日本鳥学会 2015 年度大会に行って来ました。9 月 18 日～21 日という日程の 20 日のみでしたが、会場の兵庫県立大学神戸商科キャンパスに出向きました。一つには新版の編纂に際していろいろお世話になった学者や研究者も多数参加されるはずなので、直接お会いして御礼を言いたかったのです。

例えば、日本鳥学会の次期会長に選出された西海功さん。目録 7 版の発行前は野鳥誌『鳥の分類』（2012 年 7 月号）で解説記事を、昨年（2014 年）の連携団体総会では『DNA 解析で見えてきた東アジアの鳥類の多様性と分類の今後』という講演をお願いしました。新版では、チメドリ科の分類に関して相談させていただきました。

目録 7 版では、外見がよく似ているウグイス科がムシクイ科、ヨシキリ科などに細分化されましたが、チメドリ科はこれまで外見も多様な属や種が含まれてきました。新版編纂当時、IOC（国際鳥類学会議）では 3 つの科に分けることを提案していました。ヒゲガラ（目録 6 版まではチメドリ科）は目録 7 版でヒゲガラ科とされたので、新版ではそのままヒゲガラ科に変更しましたが、外来種として増補改訂版から扱っているガビチョウやソウシチョウはチメドリ科のままでよいか？には議論の余地があります。結果としては、西海さんの「チメドリ科の分類について一致した見解はまだないので、国内では目録 7 版に準拠しておくことが賢明ではないか」という見解に沿うことした一方で、ヒゲガラ科の解説の中で、今後、チメドリ科は細分化される見込みであることを書き加えた次第です。

◇スズメの嘴は季節で色が変わるか？

学会の大会に参加した理由には、大会実行委員に日本野鳥の会ひょうごから、代表の丸谷聡子さんらが加わってご尽力されていたので、少しでもお手伝いをしたいという思いもありました。『フィールドガイド日本の野鳥』でお世話になった事例としては、コジュケイの亜種テッケイをあげておきましょう。増補改訂に取り組んだ際、「テッケイを掲載している図鑑は『フィールドガイド日本の野鳥』だけ、もう日本にはいないかも知れないし、外してよいのではないか」という意見を頂戴しました。当時、兵庫県支部の方々に相談した結果、県内にまだいるようだということでしたので、新版でも外していません。

さて、新版での修正事例です。スズメの解説文で嘴の色の変化について追記したことは、この連載（2014 年 12 月号）で紹介しました。今回の大会では、なんとそれについての発表があったのです。私がウトナイ湖サンクチュアリのレンジャーだった頃、お手伝いをいただいたこともある玉田克巳さんらによるもので、大変嬉しく思いました。

30 年以上前から気になっていて、自分でもデータは取っていましたが、まとめたり、解析したりする時間がとれず、さまざまな機会にいろいろな人に注目するよう呼びかけてきました。現在は当会普及室長の富岡辰先が、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリのレンジャー時代に応えてくれて、「嘴基部が黒くなる変化は 1 月から始まるようだ」という観察結果を知らせてくれたのも、すでに 20 年以上前でしょう。

標識調査に関わる方々に聞いても「秋冬は嘴基部が淡色の個体が多い」ことは確かです。ただ、嘴基部の色の変化については成長過程なのか？季節変化なのか？個体差なのか？など、きちんと調べられてきませんでした。玉田さんから、今回の発表は追って論文としても発表したいと聞いていますが、結果としては季節変化だそうです。

◇水浴びが先か？砂浴びが先か？

学会の大会では、前述の玉田さんのような口頭発表のほか、ポスター発表があります。当会は Strix などの紹介・販売でブース出展もしていたので、そこにも顔を出そうと会場内を歩いていたら、荒川区環境課の本間幸治さん（日本野鳥の会東京では新浜探鳥会を担当）に呼び止められました。『都市部の農園を利用するスズメの行動と効果』というポスター発表をされていて、その資料を頂戴したのですが、これまた嬉しくなりました。この本間さんの発表にも、長年にわたるスズメ観察の課題が含まれていたのです。

30 年以上前に高野伸二さんが『フィールドガイド日本の野鳥』を著したそれ以前に遡ります。私が高野さんから野鳥の見方、楽しみ方の

さまざまな観点を教わってきた中でも、特に行動の観察は、その後の探鳥会での案内にも役立っています。種や仲間に特有の行動は識別点になるだけでなく、野鳥の暮らしを知る上でも重要だし、身近な鳥でも楽しめる着眼点にもなるからです。

例えば多くの鳥は水浴びをしますが、砂浴び専門のキジ科やヒバリ科もいる一方、水浴びも砂浴びも頻繁に見られるのがスズメです。高野さん自身もよく話題にしていましたが、そのオチが「・・・とはいえ、水浴びしてから砂浴びすると汚れちゃいますよね」でした。私はすでに水浴び直後に砂浴びをするスズメを何度も見ていたので、高野さんに意見した思い出があります。

増補改訂版で、私は「行動の見分け方」を新たに２頁加えた中で、スズメの砂浴びについては谷口高司さんに図版もお願いしました。本間さんによると、水浴びをしてから砂浴びをしたケースが 2014 年 4～8 月の観察 19 件の 18 件、2015 年 3～8 月の観察では 28 件中 24 件だったそうで、やはり水浴びが先というケースが普通のようです。

（普及室／安西英明）

▲画像の紹介は、新版での追記種として谷口高司さんに描いてもらったイワバホオジロ（雄）です。よく似たズアオホオジロは増補改訂版ですでに掲載しましたが、識別ポイント、三列風切の淡色部分（ズアオホオジロは凹凸が目立つが、イワバでは細い筋に見える）まで描き分けてあります。

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信 10 月号の電子メール版の購読者数は、先月から 6 名増えて 788 名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表2．探鳥会スタッフ通信 10 月号電子メール版の購読者数（2015 年 10 月 9 日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪	4
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	3
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	4	静岡支部	3
函館支部	0	遠江	6
道南桧山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	3
山形県支部	5	和歌山県支部	2
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	3	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	24
宮城県支部	39	ひょうご	10
ふくしま	3	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	2
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	7
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	5
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	14
茨城県	21	北九州	12
栃木	45	福岡支部	11
群馬	24	筑豊支部	19
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	36	佐賀県支部	4
千葉県	18	長崎県支部	1
東京	51	熊本県支部	5
奥多摩支部	47	大分県支部	2
神奈川支部	18	宮崎県支部	3
新潟県	1	鹿児島	1
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	29	西表支部	2
		合計	788

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

フィールドに出るのが気持ちのいい季節になりました！これからは、探鳥会だけではなく様々なイベントが目白押しのシーズンです。そんな沢山のイベントの中から探鳥会を選んで参加してくださった参加者の皆さまには是非、楽しんで帰って頂きたいと思います。

今月号には「探鳥会リーダーズフォーラム」のご案内を掲載しています。より良い探鳥会開催のためにも、多くの方にご参加いただき、色々な情報収集に役立てて頂ければと思います。

（普及室／植木陽子）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第31号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2015年10月16日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org